資料 4　第 1 回遣隋使の記録

隋書

原文（Wikisouce）	書き下し（藤堂明保他による講談社学術文庫版）
開皇二十年俀王姓阿毎字多利思北孤號阿輩雞彌遣使詣闕上令所司訪其風俗使者言俀王以天爲兄以日爲弟天未明時出聽政跏趺坐日出便停理務云委我弟髙祖曰此大無義理於是訓令改之王妻號雞彌後宮有女六七百人名太子爲利歌彌多弗利無城郭	(隋の)開皇二十年(600)、倭王の姓は阿毎、字は多利思北孤、号して阿輩雞弥というもの、使を遣はして闕[王宮]に詣らしむ。上[文帝]、所司をして其の風俗を訪ね令む。使者言う、 「倭王は天を以って兄と為し、日を以って弟と為す。天が未だ明けざる時、出でて政を聴き、跏趺[あぐら]して坐す。日出ずれば便ち理務を停め、我が弟に委ねんと云う」と。 高祖曰く、 「此れ太だ義理無し」と。 是に於いて訓して之を改め令む。 王の妻は雞弥と号す。後宮には女六七百人有り。太子を名づけて利（和）歌弥多弗利と為す。城郭無し。